



北海道札幌

農科大學

八田三郎

殿



大坂市西區南堀江通壹丁目
勝本忠兵衛

肅啓 時下秋冷の候高堂愈御多祥奉大賀候陳者不肖儀曩きに乏を大正日日新聞設立發起の任に受くるや大方諸賢甚深の御配慮御高助を忝うし以御蔭首尾克く資本金貳百萬圓の株式會社組織の下に大正日日新聞社の創設を見るを得たるは不肖の幸榮として衷心感謝措く能はざる處に御座候新聞が社會の耳目にして其の一大公共事業たる事敢て呶々するの要無之今や世界改造の秋に際して文化指導として特に其の重きをなす洵に故なきに非ず不肖微力を顧みず此際國家に貢獻する當さに斯業に在て存すことなすもの亦此故に外ならず候從て不肖が大正日日新聞社常務取締役として日夜齟齬致候は素より秋毫も天下の公器を私せんとするの念慮故に非ざる事敢て申上る迄もなし今や本新聞社の業務も内社員の精勵と外大方諸賢の御後援とに依り著々其の緒に就き初號發刊に至る迄僅かに三句を餘すのみと相成候事不肖の誠に欣幸とする處此上は一層銳意本社の爲めに企畫し所謂木鐸の使命を完ふせしめ以て諸賢御同情左提右挈の御高義に酬ゆる處あらんと勇奮期し候事に御座候然るに此時此際に當り不幸二豎の犯す處となり宿志を果たす能はず大方知己の期待に背いて空しく靜養裡の人となりざるべからざるに至り候は不肖の痛恨に堪へざる處然かも醫師の勸告家人の懇請切にして否み難く茲に萬斛の涙を呑んで大正日日新聞社常務を辭任し單に取締役として員に列し居候事に致候に對し何卒不肖の苦衷御憐察の上之を諒せられんことを伏して奉懇願候數ならぬ不肖に對して御厚情を寄せられ候諸賢の御盛誼は不肖永く是れを忘る間敷必ずや機を得て御報恩可期申候不肖常務を辭し候とも社長藤村男爵並に常務取締役兼主筆島居素川氏僞ごして其職に存せらるるあり兩氏に於ても斯の天下の公器を擁し然かも多數株主諸賢共同の事業たる斯の株式會社を双肩に荷はるゝ事なれば委任者たる株主諸賢の意思を尊重し一意其の責務を果たすに努力せらるべく決して一黨一派の利害等の爲に之を左右せらるるなきを確信して疑はず今後大正日日新聞社の事業に就ては諸賢と共に安んじて其の成功を期待し得べしと存候何卒不相變御援助の程奉懇願候病中一々拜趨具陳致兼ね乍略儀以書中常務辭任の御挨拶旁申上

度如斯に御座候

敬 具

大正八年十月

日

勝本忠兵衛

八田三郎殿

侍史

大正日新聞社の創立を以て、
謝措く能はざる處に御座候新聞が社會の耳目にして其の一大公共
事業たる事敢て呶々するの要無之今や世界改造の秋に際して文化
指導として特に其の重きをなす洵に故なきに非ず不肖微力を顧み
ず此際國家に貢獻する當さに斯業に在て存すことなすもの亦此故に
外ならず候從て不肖が大正日日新聞社常務取締役として日夜齟齬
致候は素より秋毫も天下の公器を私せんとするの念慮故に非ざる
事敢て申上る迄もなし今や本新聞社の業務も内社員の精勵と外大
方諸賢の御後援とに依り著々其の緒に就き初號發刊に至る迄僅か
に三句を餘すのみと相成候事不肖の誠に欣幸とする處此上は一層
銳意本社の爲めに企畫し所謂木鐸の使命を完ふせしめ以て諸賢御
同情左提右挈の御高義に酬ゆる處あらんと勇奮期し候事に御座候
然るに此時此際に當り不幸二豎の犯す處となり宿志を果たす能は
ず大方知己の期待に背いて空しく靜養裡の人とならざるべからざ
るに至り候は不肖の痛恨に堪へざる處然かも醫師の勸告家人の懇
請切にして否み難く茲に萬斛の涙を呑んで大正日日新聞社常務を
辞任し單に取締役として員に列し居候事に致候に對し何卒不肖の
苦衷御憐察の上之を諒せられんことを伏して奉懇願候數ならぬ
不肖に對して御厚情を寄せられ候諸賢の御盛誼は不肖永く是れを
忘る間敷必ずや機を得て御報恩可期申候不肖常務を辞し候とも社
長藤村男爵並に常務取締役兼主筆鳥居素川氏儼として其職に存せ
らるるあり兩氏に於ても斯の天下の公器を擁し然かも多數株主諸
賢共同の事業たる斯の株式會社を双肩に荷はるゝ事なれば委任者
たる株主諸賢の意思を尊重し一意其の責務を果たすに努力せらる
べく決して一黨一派の利害等の爲に之を左右せらるるなきを確信
して疑はず今後大正日日新聞社の事業に就ては諸賢と共に安んじ
て其の成功を期待し得べしと存候何卒不相變御援助の程奉懇願候
病中一々拜趨具陳致兼ね乍略儀以書中常務辞任の御挨拶旁申上
度如斯に御座候

敬 具

大正八年十月

日

勝本忠兵衛

八田三郎殿

侍 史